

# ルポンドシエルビル(大林組旧本店ビル)

LE PONT DE CIEL Building

No. 03-004-2010更新

改修・保存  
事務所／飲食

発注者	大林不動産株式会社	カテゴリー	
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術
施工	株式会社 大林組	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

## 大大阪時代を今に伝える記念碑的建築

はじめに

ルポンドシエルビルの建つ大阪市中央区北浜地区周辺には、大阪が「大大阪」と呼ばれた大正時代～昭和初期の活況期に建った趣深い近代建築が今も数多く残っている。それらの多くは近代化の波に洗われ、あるものは消え、あるものは姿を変えて現在に生き残ってきた。株式会社大林組の四代目本店ビルにあたるこのルポンドシエルビルも数回の改修を経てきているが、オリジナルな外観はそのままだに、機能、性能を充実し保存活用されることとなった。



ルポンドシエルビル正面外観（※印は三陽企画・黒田青巖氏撮影）

ルポンドシエルビルの建設意義

このビルが建てられた背景は、関東大震災の教訓から耐震、耐火性能の高い建物が世に求められた時代にあった。大林組は、その数年前に三代目本店ビル（煉瓦造三階建て）をこの地に建てていたにもかかわらず、社会の要請に応じてアメリカから新鋭機器と最新工法を導入し、大正14年2月23日、時代の先端を切り開く工事に着手した。

当時としては耐震、耐火性能の高い鉄筋コンクリート構造を採用し、アメリカで流行していたスパニッシュデザインを纏って建設されている。当時「東洋のマンチェスター」と呼ばれた大阪の街でもこれだけの高層ビルはまだ珍しく、大川沿いの立地ということもあって、大阪の市民にとっては橋からも川からも格好のランドマークであったと思われる。

建物データ

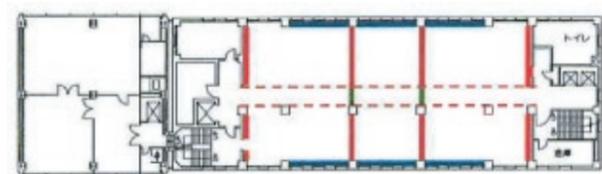
所在地	大阪府大阪市
竣工年	1926年（改修：1964、1981、2007年）
敷地面積	829㎡
述床面積	5,898㎡
構造	RC造
階数	地下1階、地上6階（接続増築棟は9階）

ルポンドシエルビルの改修目的と手法

2006年に大林組社内において築80年を経たこの建物を保存するか否かの検討が行われ、大川沿いの景観形成や、大阪の繁栄時代を証明する歴史的価値、会社としての記念碑的意味合いなどから「保存活用してゆく」という方針が固められた。翌年より、現代に活用するビルとして現行法規に準拠する耐震性能の向上や、設備を一新するに近い大改修工事が半年間行われ、現代社会の仕様と要請に充分応えるビルとして生まれ変わった。

躯体の耐震性能の向上を図って色々な案が検討がされた。●A案：鉄骨ブレース案と●B案：耐震壁増し打ち案を比較した結果、（工事の面では大変であるが）懐古的なビルのイメージを壊さないようコア廻りの壁を増し打ちするB案が選ばれた。

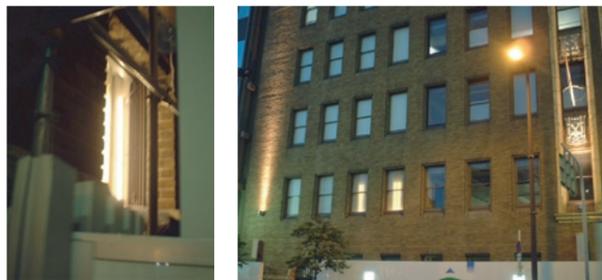
また、外観は完全に窓開口を残したまま耐震壁を設置した為、窓に干渉しないよう、若干室内面積を犠牲にしても既存壁の内側に壁を取り付けている。道路側1、2階の窓についてはさらに工夫を凝らし、耐震壁のある窓が暗くならないよう、窓と耐震壁の間にLED照明の暖かい内照効果で演出した。



●A案：鉄骨ブレース案（検討案）



●B案：耐震壁増し打ち案（決定案）



工事中の耐震壁設置窓LED照明テスト状況



夜間のライトアップ状況（※）

2007年の改修により建物用途も変更し、地下1階から2階までの3フロアは飲食施設、3階は企業の資料館となり、最後の2009年の改修で上層階には新しいテナント企業がオフィスとして入居した。



1階玄関ホール（※）



1階のレストラン・ルポンドシエル（※）



3階の大林組歴史館（※）

受賞歴：第18回BELCA賞ロングライフ部門表彰受賞（2008）・第29回大阪都市景観建築賞特別賞受賞（2009）

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3 .2. まちなみ・景観への配慮（歴史性の継承）
- Z その他（耐震壁補強による躯体の耐震性能向上）